

第3回 小平市子ども・子育て審議会 会議録	
日時	令和6年1月12日（金）午前10時～11時30分
場所	小平市役所 5階 505会議室
出席者等	<p>子ども・子育て審議会委員 14人（オンライン参加2人 欠席2人） 雨宮美佳、金子恵一、菊地千穂、小宮山一美、神保佳世子、匝瑳友美、竹内よし子、田村寛、樋之口容子、福田陽子、町田綾子、森下葉子、山縣弘典、山下 健（五十音順）</p> <p>事務局 11人</p> <p>子ども家庭部長、子育て支援課長、家庭支援担当課長、子育て支援課長補佐、保育課長、保育指導担当課長、保育課長補佐2人、障がい者支援課長、地域学習支援課長、教育施策推進担当課長</p> <p>傍聴人 0人</p>
議事	<p>（1）次期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について</p> <p>（2）その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第3回小平市子ども・子育て審議会 会議次第 ・資料① 調査票案 就学前児童調査票 ・資料② 調査票案 就学児童調査票 ・資料③ ニーズ調査ウェブ画面 ・資料④ 計画策定スケジュール概要
記録の作成者	子ども家庭部子育て支援課
1. 開会	
2. 議事	
（1）次期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について	
会長	議事（1）次期小平市子ども子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局	<p>これから策定いたします「小平市子ども・子育て支援事業計画」につきまして、5年間の計画期間において量の見込みを設定し、提供体制の確保の内容と実施時期を記載しなければならないものです。この量の見込みにつきまして、現在の利用状況と今後の利用希望を踏まえて設定しますが、これらを把握するためニーズ調査が必要となり、実施をするものです。このニーズ調査の項目等につきましては、国から発せられる「市町村子ども・子育て支援事業計画における『量の見込み』算出等の考え方について」を基に作成することになっています。</p> <p>第三期計画における算出等の考え方につきましては、9月末にこども家庭庁から「第三期市町村子ども・子育て支援事業計画における『量の見込み』算出等の考え方の初版」というものが発出され、各自治体の意見を踏まえた改訂版が発出される予定となっております。そのため10月開催予定であった第3回審議会を延期とさせていただいたところです。この改訂版について11月までにはというような話もあったのですが、現段階でも国から発出されておられません。ただ、今後の計画策定のスケジュールを考えると、これ以上の延期は難しい状況であり、また初版において前回の手引きをベースに対応が可能であるということも示されていることもあるので、初版に提示された項目の考え方を基に、ここでニーズ調査を実施し、教育・保育及び地域こども・子育て支援事業の現在の利用状況を把握するとともに、その結果を用いて教育・保育、地域こども・子育て支援事業計画の量の見込みを推計し、具体的な目標設定を行ってまいります。</p> <p>これを踏まえて、私どもで作成したものが、事前資料としてお送りした調査票案の①と②、就学前児童と就学児童の分であります。</p> <p>はじめに、今回の調査方法について説明させていただきます。調査の対象につきましては、就学前児童を持つ保護者及び就学児童の保護者それぞれ2,000件、無作為抽出して、2月の中・下旬を目途に依頼状を送付します。依頼状の送付から約1か月程度の期間を設け、ご回答をいただく予定です。</p> <p>ご回答につきましては、資料①、②の紙面による回答ではなく、WEB方式による回答をメインとします。具体的には、対象者に送付する依頼状にQRコードとIDおよびパスワードを記載して、そこからご自身の端末でログインして回答</p>
-----	--

	<p>していただくかたちとなります。資料③はこのイメージとなっており、調査内容につきましては資料①、②と同様のものを作成いたします。なお、紙面による回答を希望される方につきましては、連絡をいただきまして、資料①又は②をお送りしてご回答いただきます。また、原則としてWEB方式での回答となることもあり、元々設問の数も結構な数となっておりますので、今回のニーズ調査の設問数につきましては、回答率を上げる観点からも量の見込みの算出に必要な項目に絞っております。</p> <p>以後、調査票の内容について、資料①と②を用いて説明をさせていただきます。</p> <p>資料① 調査票案「就学前児童」</p> <p>問1から問6として、教育・保育提供区域と、家庭類型の分類に必要な基礎的な情報をお尋ねします。続いて、問7から問14では、子育てに日常的に関わる人や施設などを尋ね、子どもの育ちを取り巻く環境について調べます。問15から問19では、保護者の就労状況について尋ね、家庭類型の分類に反映させます。問20から問28では、平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と希望を尋ね、その意向を調べます。問29から問31では、地域子育て支援拠点事業（子ども広場、子ども家庭支援センター）の利用状況と希望を尋ね、その利用の意向を調べます。問32から問35では、土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育の事業の利用希望を尋ね、その意向を調べます。問36から問42では、問20で「幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育の事業を平日利用している」と答えた方に対して、普段利用している教育・保育の事業が病気等の理由により利用できなかった場合の対応と希望について尋ね、病児・病後児のための保育施設等の利用の意向を調べます。問43から問47では、子どもの不定期の教育・保育の事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について尋ね、その利用の意向を調べます。問48から問51では、4歳以上である方に、小学校就学後の放課後の過ごし方について、児童館や学童クラブなどの利用の意向を調べます。問52から問59では、育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について、その状況を調べます。問60では、お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について調べます。</p>
--	---

資料② 調査票案「就学児童」

問1から問6では、教育・保育提供区域と家庭類型の分類の基礎的な情報を尋ねます。問7から問13では、子育てに日常的に関わる人や施設などを尋ねます。問14から問19では、保護者の就労状況について尋ねます。問20から問23で、地域子育て支援拠点事業（子ども広場、子ども家庭支援センター）の利用状況と希望を尋ね、利用の意向を調べます。問24から問28では、病気の際の対応等について尋ね、施設等の利用の意向を調べます。問29から問33では、私用、保護者の通院、不定期の就労等の目的での子どもの一時預かり事業の利用について意向を調べます。問34から問37では、子どもの放課後の過ごし方について尋ね、児童館や学童クラブなどの利用の意向を調べます。問38から問42では、学童クラブの利用状況と希望を尋ね、その利用の意向を調べます。問43では、お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について調べます。

ニーズ調査についての説明は以上となります。

資料③ ニーズ調査ウェブ画面

資料③につきましては、調査を今回WEBで行いますので、その際の画面のイメージとなります。作り込みはこれからというかたちになります。

本日は委員の皆様からお気づきの点などございましたら、ご意見を頂戴したいと思います。また、今後子ども家庭庁から調査項目の追加等について指示や例示が示される場合には、その項目の追加を調査までにさせていただきたいと思っています。

資料④ 計画策定スケジュール概要

計画策定のスケジュールについてですが、このニーズ調査を含めた今後の第三期子ども・子育て支援事業計画の計画策定スケジュールについて、正式なものではありませんが、現時点での予定としてお示しさせていただきます。まず、本年3月に第4回審議会にて計画策定方針の概要を報告させていただきます。その計画策定方針ですが、計画策定の背景や計画の位置づけ、また、計画策定の進め方やスケジュールなど、基本的な事項を定めるものとなります。

年度が変わり、令和6年5月の令和6年度第1回の審議会では、ニーズ調査の結果報告、事業量見込みの検討状況をお示しする予定です。その後、10月ま

	<p>でに現状・課題の把握や素案の検討を行い、11月以降、パブリックコメントなどを経て計画案の作成を行います。最後に令和7年2月の審議会におきまして、子ども・子育て支援事業計画の報告をさせていただきます。計画の策定があることから、令和6年の審議会の開催日数は、例年4回のところ、6回を予定しております。皆様お忙しいところ恐縮ではありますがよろしくお願いいたします。</p> <p>説明は以上です。</p>
会長	<p>ただ今説明があったことについて、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>本市における就学前と就学児の人数が何人となるのでしょうか。そのうちの2,000人を抽出する、その2,000人という考え方について教えてください。</p> <p>また、第2期子ども・子育て支援事業計画での調査内容と変わった点、あるいは小平市独自で加えた点等がありましたら教えてください。</p>
事務局	<p>2,000人についての考え方ですが、前回と同様の抽出数としています。</p> <p>回答率について、前回調査では50%を超えており、調査母体として必要な数は満たしていると考えております。</p> <p>前回の調査との変更点につきまして、前回は児童虐待に関する項目を加えておりましたが、先ほど申し上げた通り、回答率を維持したい、上げたいというところもあり、今回は量の見込みを算出するものに絞って設問数を抑えるというところで、その点については次の機会に送っているという状況です。</p>
委員	<p>考え方については理解しました。</p>
事務局	<p>就学前の子どもの人数ですが、令和5年の4月1日現在で9,272人ということで、現計画で令和5年度に見込んだ10,056人、概ねその数字に近いものということでは捉えています。就学児童につきましては10,923人となっています。</p>
委員	<p>第1問目の、町の丁目を聞くとありますが、無作為で2,000人抽出をした場合に、町の丁目ごとに平均の人数でとれるのでしょうか。花小金井地域では開発が進んでいるなど、住環境や子育て環境が市内でも違うなと感じますので、調査対象者に偏りがあるとデータが取りこぼされてしまうのではないのでしょうか。2,000人で満遍なくカバーできるのか、という点を確認させてください。</p>
会長	<p>抽出のときに地域ごとにとか、その辺りはいかがですか。</p>

事務局	<p>無作為抽出にはなりますけれども、一定程度の区分を設けた中で無作為の抽出をかけますので、ご回答いただける、いただけないというところはあるかもしれませんが、抽出の段階で地域に偏って他の地域がゼロになるというようなことはないように配慮してまいりたいと思います。</p>
委員	<p>無作為抽出について、市民から問い合わせがあるのではないかと思いますので、市民が理解できるようにご回答いただきたいと思います。</p> <p>それから細かいことですが、就学前の2ページ目、例えば問7の選択肢1から8で、「5 幼稚園」「7 認定こども園」という区分になっていますが、これは就学前の親たちに理解していただけるのでしょうか。幼稚園と認定こども園の区分などをはっきりとどこかに示した上で選べるようでない、保護者が幼稚園につけていいのか、認定こども園につけていいのかが悩んでしまうのではないかと、思いましたので、注釈を入れていただくほうがよいのではと思いました。</p> <p>それと、就学前児童アンケート8ページの間28、これは幼稚園のアットホームの預かりなどについての設問だと思うのですが、私としては「利用を強く希望する」に「強く」と入れる必要はないのではないかと思います。「強く」というのは個人的な気持ちで曖昧なので、今の時点で希望したいか、したくないかというような聞き方のほうが正しいのではないかと感じました。アットホームに関しては、慎重にさせていただかないと、調査結果によって必要ないからなくす、というようなことにされてしまうのは不本意だなと考えております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>2,000人の考え方については、母体としては10,000人に対して2,000人というのは十分な数かと思っておりますが、そういったことを市民の方からお問い合わせをいただきましたら説明していきたいと思っております。</p> <p>また、言葉の意味がわからないのではないかとということで、先ほどは説明をしておりますでしたが、就学前児童対象分については「記入の手引き」というかたちで、例えば幼稚園の定義、基本料金がいくらであるとか、幼稚園の預かり保育と認可保育所、認定こども園とか、そういった用語の定義と基本料金等についての説明を、紙ベースでお答えをご希望される方には紙でお配りして、WEB画面上でお答えいただく方についても説明を加える準備をしていきます。</p>
事務局	<p>預かりについての設問で、わかりにくい表現だということをご指摘いただきました。内部で今のご意見を受けてどうするか考えていきたいと思っておりますが、ニーズ調査については、今回で3回目の調査であり、前回も前々回も「強く希望するか」という表現で、ご希望を経年で把握したいと思っておりますので、ご理解いた</p>

	<p>できればと思います。</p> <p>アットホーム事業についても貴重なご意見をいただきありがとうございました。今回のニーズ調査については、現在のご利用の希望ということで保護者の方に伺うこととなりますので、ご理解いただければと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。用語の説明については、別途「記入の手引き」があるということですが、就学児童の質問用紙を見ると、2ページ目に簡単に言葉の説明が載っているので、そういったかたちで、紙面上に幼稚園、認定こども園の定義が載っていると回答しやすいのかなと、今、委員のご意見を伺いながら思いました。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、就学児童についてはこのページの中に収めていますが、就学前児童の分については、用語の説明だけで3ページにわたるもので、間についても複数の箇所にかかったり、共通して同じ言葉が出てくるので、それぞれの間に出てくる同じ用語については1つにまとめて説明する、紙ベースではそのようなかたちで整理をさせていただこうと考えているところです。</p> <p>WEBの方については、今、作成途中ですけれども、見やすいようなかたちにしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>資料④のスケジュールについて、11月に市民意見募集、パブリックコメントというところがあります。こちらは、どのように募集をする予定なのか教えてください。</p>
事務局	<p>10月のところで素案の検討②とありますが、そこまでで計画の素案というのを作り、概ね計画のかたちにできあがります。それをインターネット上、小平市のホームページ等で公開をして、それに対するご意見を、パブリックコメントのフォームがありますので、そういったところでご意見を頂戴して、それをまとめて、また、それぞれのご意見に対しての市としての考え方など示します。インターネット上が一番簡便かとは思いますが、市役所の市政資料コーナーや、私ども子育て支援課、あるいは子育て関係の各施設などにも素案を置いて、また、紙ベースでの意見の提出用紙も置くようになるかと思います。そういったところで広く目に届いてご意見いただけるようにと考えています。</p>
委員	<p>今、メールシステム等も学校や幼稚園で充実してきているので、可能であれば学校などを通して保護者に周知していただけると、皆さん知る機会が増えていいのではないかと思います。</p>

委員	<p>2,000人抽出に関してもう1点お聞きしたいのですが、就学児童は小学生のお子さんだとはっきりわかりますが、就学前のお子さんの対象となっているのは、中身を見ると主に幼稚園や保育園に通っているお子さんのご家庭に聞く内容になっていると思いますが、無作為に選ぶとなると、保育園に通うお子さんが多くなっていて、幼稚園に通うのは市外のお子さんもいる中で小平市民のお子さんを選ぶことになるので、教育機関の区分も考えながら無作為にということなのか、年齢も含めどのように選ばれるのでしょうか。</p>
会長	<p>どこまでランダムにすればいいのかということの難しさがありますね。</p>
事務局	<p>年齢については0歳から5歳で、市内在住の就学前児童をもつ保護者2,000人というかたちの抽出になります。幼稚園に通っているお子さんを持つ保護者、あるいは保育園に通っているお子さんを持つ保護者を抽出の段階で対応するのではなく、必要に応じて、クロス集計等を行うようになるかと思います。</p>
委員	<p>抽出の部分でもう一度ご質問したいのですが、障がいの方もいらっしゃると思いますが、その方たちに対しても無作為にアンケートをお願いするということでしょうか。</p> <p>もう1点、虐待の項目を削除したということですが、それでも特に問題はないのか、お尋ねしたいと思います。</p>
事務局	<p>やはり抽出の段階で障がいの有無というところも区分としては設けませんので、その中にそういった方がいらっしゃれば、それに応じた回答をいただきます。</p> <p>また、虐待の質問を削除したことについて、今回の調査は、申し上げております通り、ニーズの把握というところで、量の見込みを立てるためのものに絞って考えていますので、虐待についてはそこには直接影響がないということで削除を考えたということです。</p>
事務局	<p>補足しますと、障がいのところは障がいに特化した計画で調査等をしております。</p> <p>2点目の虐待についての調査項目ですが、前回、特別に入れたのは、その回答を見るのと同時に、答えていただくことによって虐待に関する意識づけをしたいということで付け加えた経緯があります。今後、別の調査等の機会を捉えて、虐待の項目を設けられると考えています。</p>
会長	<p>障がいの有無というのは、お子さんの障がいも含むということを聞いております。事前の打ち合わせで、保護者の方で障がいをお持ちの方は、こうした回答をす</p>

	<p>るのがすごく難しい方もいらっしゃるかもしれないので、そういう方の声をどのように掬い上げるのかと質問したのですが、窓口等でお話を聞くような体制をとられるということでした。紙面で言葉を使つての調査の限界というのは、どのような調査でもありますので、いろいろな調査等を重ねながら実態を把握することが必要なのかなと思っています。</p>
委員	<p>就学児童の小学校の部分の10ページ、お子さんの放課後の過ごし方についてですが、問34で「放課後子ども教室」と書いてあって、それが何日ぐらいとありまして、12ページの問37に細かく利用状況の項目が並んでいますので、放課後子ども教室で何をやっているかということも記載があるとわかりやすいのかなと思います。</p> <p>また、12ページの学童クラブの利用について、問39の利用、例えば日曜日・祝日を、「1. 低学年（1～3年生）の間のみ利用したい」、「2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい」というところで、低学年、高学年という分け方なのですが、例えば学年ごとに、2つの区分ではなくて、例えば2年生までとか5年生までといったように細かくしたほうが、ニーズ調査の把握で役立つのかなと思います。</p> <p>また、9ページの問32で、大規模施設で過ごす事業、小規模施設で過ごす事業というところで、この大規模・小規模が何を指すのかといった定義があると、記入者はイメージが湧くのかなと思います。</p> <p>もう1点学童クラブですが、こちらは公営の他に民間事業としても学童クラブがあると思うのですが、そこは分けずに一律に学童クラブという表現とするのでしょうか。公営、民間に分けたほうがニーズを把握しやすいのではと思います。</p>
事務局	<p>1点目の放課後子ども教室と、3点目、問32の件につきましては、より丁寧な説明となるよう検討していきたいと思います。</p> <p>問39の区分けについて、現状、国の方で、この2つに分けてというのがモデル的に示されており、小平市の現状としても、低学年につきましては、公設の学童クラブ希望者については、当初の入会の申し込みについては全員受け入れるという方針でやっておりますので、従前の区分けでの低学年の利用区分、利用希望というのを把握したいと思います。また、現状では4年生以上の受け入れは原則としてはできていない状況ですが、今後の展開や、現状での意向把握のために、高学年というかたちで、直ちにということにはなりません、こういった意向がこのカテゴリーであるかということは把握したいと考えておりますので、それが4年生まで、5年生ま</p>

	<p>でという聞き方になると少し煩雑かなということもあり、このような設問の設定としております。</p> <p>学童クラブについても、現状では公設の、市で設置している学童クラブについては、直営でやっているところ、あるいは指定管理者による公設民営といったところもあるのと、また、近年始めたところでは、民設民営の学童クラブを補助金により誘致するというものもやっていますので、わかりやすいような説明の仕方を検討していきたいと思います。それ以外にも、国の定める放課後児童健全育成事業に該当しないものもありますけれども、少なくとも学童クラブというときには、そこがわかるようにしていきたいと思います。</p>
委員	<p>フリー記入で意見をお書きくださいという欄がありますが、こういうところに書く方たちは言いたいことがすごくあると思うので、報告の際に、どういう細かいニーズがあるのかというのを吸い上げて、集計結果を示していただきたいと思います。</p>
会長	<p>自由記述からも重要な示唆が得られる場合もありますので、結果を示していただければと思います。</p>
事務局	<p>前回の、第一期の5年前の調査のときには、ご記入いただいたものをそのまま全文でいうかたちではないですけども、調査報告書の中ではカテゴライズしてどのような意見があったかということを整理しています。</p>
委員	<p>就学前調査票の10ページ、問36について確認です。ここは、要するに幼稚園と保育園などに通っていて、病気やけがで休んだことがありますかという問だと思うのですが、それに関して、「1 あった」に丸を付けた人になると、ここの項目は仕事をしている人に対して聞いている内容ではないかと思います。例えば、9ページに、あて名のお子さんの土日の過ごし方というところで、「教育・保育の事業とは、幼稚園、保育所などの事業を指します。親族・知人による預かりは含みません。」とここは書いてあるのですが、例えば問37に関しては、両親が就業している方ということでもいいのではないかと感じました。</p>
会長	<p>幼稚園にお子さんを預けている方は「エ. 父親または母親のうち就労していないほうが子どもをみた」に、回答が集中するのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>回答としてはこれで選ぶのでしょうか、就業している方への聞き取りのように思われたので、この選択肢が間にあるよりは一番下にあるだとか、そういう棲み分けがあったほうがいいのかと思いました。仕事をしている前提での並び方だなとい</p>

	うところが気になりました。
事務局	貴重なご意見ありがとうございました。基本的には、この幼稚園、保育園を利用されている子どもが病気になったときに、こういった対応をしているかという設問で、お仕事をしている人であればお仕事を休んだり、就労されていない親御さんがいればその方が子どもをみた、ベビーシッターを頼んだ、病児の施設を利用した、入院したなどの状況をお聞きしたいという趣旨のものです。選択肢として難しいということであれば、工夫する必要があるかと思います。
委員	一番上に「父親または母親のうち就労していない人がみた」というのが例えば「ア」にあって、あとの選択肢は就労の人向けというような、並びの方が親切かと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	ありがとうございます。表記の仕方については検討したいと思います。
委員	<p>世帯年収は項目として必要ないのでしょうか。家族構成について聞く欄はあるのですが、家族構成だけでは、経済的なものとか、それに付随する物理的な余裕について分からないと思うので、先ほどクロス集計の話もありましたが、ニーズが多少違ってくと思うので、世帯年収は必要ではないのかなと思いました。</p> <p>もう1つ、学童について、今は3年生までの利用なのですが、高学年になっても利用したいという項目が設問としてあるのはとても嬉しいことだと思いました。身近な人で、3年生で学童が終わってしまうので、やむなく仕事を辞めてしまったという方がいらっしゃったし、私自身も仕事をするなら、4年生、5年生、場合によっては6年生までみていただきたいと思うので、利用希望者だけでもみていただくことができるのであればとても助かるなと思いました。</p>
事務局	年収の問はないのですが、先ほどもお話があった就労状況というところでは、就学児童のほうは問14で、父親、母親の就労状況、フルタイムなのか、パート・アルバイトなのか、現状お仕事をされていないのか聞いており、そういったところで保育などのニーズにつながっていくのかなと思いますので、こういう問いかけの仕方となっています。
事務局	学童クラブの受け入れについて、量の把握ということで、高学年のお子様でもどのぐらいのニーズがあるのか調査します。現在、小平市の学童クラブについては、定員数に対して児童数がかなり超過している状況のため、低学年の受け入れを優先しているところです。ただ、今後、定員に対して児童数が著しく減っている状況が見られるようであれば、そこは柔軟に考えていきたいと思っております。

事務局	<p>補足で、1点目の経済的な状況等というところは、私どもとしてもそういった分析は細やかにしたいのですが、市の調査で年収を聞くというのは、今、実態としてはおそくないのではないかと考えております。国が実施する国勢調査や生活実態調査では、貧困層の実態や、こういった施策が必要なのか、という分析が可能であると承知しています。実際に年収を聞くというのは、個人情報等の関係でそれなりにハードルがあるということと、基本的に経済施策は国の政策として進めていくというのが、一つ、大きなところですよ。また、保育でいえば、今は無償化制度がかなり進み、経済的な状況によらず利用できるようになっていきますので、貧困の状況等を見るということになれば、この調査というよりは、私どものほうで子ども・若者計画を策定していきまして、そこでは経済的な水準についてお聞きして、水準が低いと答えた方たちが、他の設問との絡みでこういった回答をしているか、特に子ども自身でいえば、少し自己肯定感が低いだとか、いろいろなものに対して満足度が高くないとか、そういったクロス集計を前回行っていますので、貧困に視点を当てた調査は、また別のところでやっていければ、と思っています。今回この調査は全国一律にすべての自治体で実施しますが、年収の設問を盛り込む自治体はないかと思っています。いろいろなハードルがあって、この調査では難しいということでご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>学童クラブの話が出たので、いろいろ地域の方々のご希望等をお伝えしたいと思うのですが、今1年生から3年生ということなのですが、やはり4年生になったお子さんは、学童クラブに行けなくなってどうしたらいいかわからない、5、6年生になるとある程度自立しているのですが、まだお子さんによっては1人にしておけないという方がたくさんいらっしゃいます。低学年よりはかなり人数的には減ってくると思うので、4年生から5生までの受け入れもなるべく早い時期にしていれば、助かる方が多いのではないかと考えています。</p>
事務局	<p>保護者にとって4年生以降の放課後の過ごし方については非常に悩ましいというのは十分理解しているところです。小平市では学童クラブの待機児童数は基本的にずっとゼロとなっていますが、このような自治体は全国的にも少ない状況であると認識しています。今、保育園から就学後の学童の待機児童というところに焦点が当たっており、小学1年生でも入れないという自治体がかなりあるということで、今後、国がそこに力を入れていこうとシフトしてきているかと思っています。そのような中で小平市は、これまでずっと待機児童数0人で、学校の協力をいただきながらやってきたところです。これが0だから4年生に取り組めるかといいますと、就学前</p>

	<p>児童数は減っているのですが、就学後はまだ微増が続く、就学後はあとから少子化の波が来ますので、まだ少し増えていることに加えて、小学校就学後に働きに出るというご家庭が多いですし、学童の入会率はやはり少し上がり続けているという状況で、毎年なんとか待機児を出さないようにやっております。ただ、今回、夏休みだけの利用意向を聞く質問を設けており、それがすぐ実現するわけではないですが、なんとかご家庭の状況に応じたサービスの工夫をしながら、利用できる方をなるべく広げていくことができないか、考えていきたいと思います。</p>
委員	<p>今、2歳の子どもがいますが、まだ学童クラブのことまで考えていなくて、さきほど委員のご意見で、学童クラブが1年生から3年生までということを知って、この調査の資料を、自宅で回答をしながらめくっていたのですが、1年生から3年生までで学童クラブが終了するという記載は特になかったように思います。まだ子どもが小さいうちは、3年生で学童クラブが終わってしまうということを知らない方もいるのではないかなと思いますので、その説明がどこかにあったら親切かなと思います。</p>
会長	<p>そこは追記していただいてもいいかもしれません。</p>
事務局	<p>先ほどの件もありましたので、そのように注釈の中で見直していきたいと思います。</p>
会長	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>就学前児童のニーズ調査の問7について、選択肢5の幼稚園と選択肢7の認定こども園ですが、幼稚園と認定こども園には1号認定児と2号認定児がいます。そこを分けないで調査した理由は何かあるのでしょうか。今、下の子が新制度型幼稚園の年少で、2号児なのですが、来年度入る1号児さんが40名、2号児さんが30名なので、幼稚園の人数の半々くらいまでになっています。この選択肢だとニーズを取りこぼしてしまうのではないかなと正直に感じたところではあるので、その辺をお伺いしたいです。</p>
事務局	<p>その設問の中では、特に認定の区分けはしていないところですが、設問を進めていく中で親御さんの就労状況などを伺いますので、そこを踏まえて、1号、2号の量の見込みをつくることになっています。厳密に2号児や1号児に区分けして必ず調査票を送るということではないものです。</p>
会長	<p>ありがとうございます。他の問と重ねて分析することですね。</p>
会長	<p>4年生以降の学童に関しては、今回の調査で、委員からも、もう少し細かく、低</p>

	<p>学年・中学年・高学年に区分したほうがいいのではないかとご意見がありましたけれども、ちょうど小平市が3年生までで終わってしまうということで、4年生以降の学童クラブのニーズというのが今回の調査で把握できればいいかなと思います。ただ、学童に関しては、例えば4年生、5年生、6年生が通えるようにしたところで、今度は子どもが通いたくないというような声が聞かれる場合があります。やはり1年生から6年生というとても発達が大きい時期に、一律に同じ環境を提供するということは難しいのかなというふうにも個人的には思っております。そうすると、小学校の高学年以降の子どもたちの自立を支えながら、どういう場を自治体として用意できるのか、また細かく分析結果などを踏まえて検討していくような課題なのかなと思っていますところす。</p> <p>皆様、他に何かご意見等ございますか。</p>
委員	<p>子どもが通いたくないとか、発達段階が違うので、一律に面倒を見られないというのも、特に高学年の保護者としては十分に理解していると思います。ただ、子どもの希望と親の心配、やはり親が一番子どもの特性を理解していると思うので、自立心はあるけれども大人の目が必要だなという子もいると思うのです。ですので、可能かどうかは別ですけれども、学童のように個室を設けるとかではなく、別の部屋か、施設か何かで、大人がたった1人でも見守る目があればという希望の方もいると思うのです。学童と全く同じ状況でということではなく、どうかたちで見守ってほしいのかということのも聞けたらいいのかなと思います。</p>
会長	<p>本当にそうだと思います。難しい課題だし、たぶんどの自治体も抱えているようなことかと思しますので、またこういった場で議論を重ねていければ良いかと思っております。</p> <p>では、特にご意見がこれ以上ないようでしたら、今いただいたご意見等を踏まえて修正された調査票を後日、事務局から提供をお願いします。</p>
事務局	<p>今日いただいたご意見、あるいは、こちらでこれまで誤植がありました点など、そういったところを修正しまして、送付というかたちになってしまうかと思いますが、皆様にも確定版というかたちで、主な変更箇所についても説明のコメントを付けたかたちでお送りできればと思っております。ご了解いただければと思います。</p>
会長	<p>では、また資料が届きましたらご確認をお願いいたします。</p>
(2) その他	
会長	<p>「(2) その他」につきまして、事務局よりお願いいたします。</p>

事務局	<p>次回の審議会の日程についてお伝えさせていただきます。次回令和5年度の第4回の審議会につきましては、本年3月26日火曜日、午前10時からの開催を予定しております。開催場所につきましては、本日とは変わります。この市役所建物6階の大会議室を予定してございます。また開催時期が近づきましたら、改めて文書で連絡をさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>3. 閉会</p>	
会長	<p>以上で令和5年度第3回小平市子ども子育て審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。</p>